

マイコプラズマ検査の申請調査試験報告

1. 目的

根室管内では2013年4月から根室生産連が推進母体となり、マイコプラズマ性乳房炎感染牛の早期発見ならびに早期対処による牛群内での蔓延防止を目的とした「バルク乳の定期検査によるマイコプラズマ性乳房炎蔓延防止対策」を、管内全JAを対象に開始した。その取り組みの中で、本会根室事業所はバルク乳のスクリーニング検査を担当したので、その結果について報告する。

2. 方法

(1) 実施体制

各JAが計画した年間検査計画に基づき、本会がバルク乳のスクリーニング検査を実施した。陽性検体が出た場合、根室家畜保健衛生所が菌種同定検査を実施した。同定検査において、マイコプラズマ属菌が確認された場合、当該酪農家は民間の検査機関に依頼し、個体乳の全頭検査を実施し感染牛の特定を行った。感染牛が確認された場合、酪農家は獣医師のサポートを受け、治療・淘汰等の積極的対処を行った。

(2) スクリーニング検査法

マイコプラズマ用液体培地（NK培地）に乳サンプル100 μ Lを接種し、37 $^{\circ}$ C72時間培養後、シカジーニナス 牛マイコプラズマス ハイクリーニンキット（関東化学）を用いPCR検査を行った。

3. 結果 検査実績

2013年度から本会が実施したバルク乳のスクリーニング検査結果と、根室家畜保健衛生所が実施した同定検査結果を表1に示した。2019年度の検出率は、前年度と比較し0.4ポイント増加した。これは8月から9月間に実施した検査における陽性検出率が著しく高かった影響であった（433検体中、19検体からマイコプラズマ属が検出）。この期間を除いた検出率は前年度と同水準であったが、今後の推移に注視する必要があるものとする。

表1 マイコプラズマのスクリーニング検査ならびに菌種同定検査結果の集計

年度	スクリーニング検査			菌種同定結果(件数)			
	実施検体数	陽性件数	検出率(%)	M.bovis	M.bovigenitalium	M.californicum	その他
2013	3,523	8	0.2	2	2	0	2
2014	4,091	9	0.2	5	1	1	2
2015	3,746	11	0.3	8	1	0	2
2016	3,626	25	0.7	14	9	0	3
2017	3,575	24	0.7	13	10	0	1
2018	3,567	32	0.9	18	6	0	7
2019	3,545	46	1.3	26	12	1	3